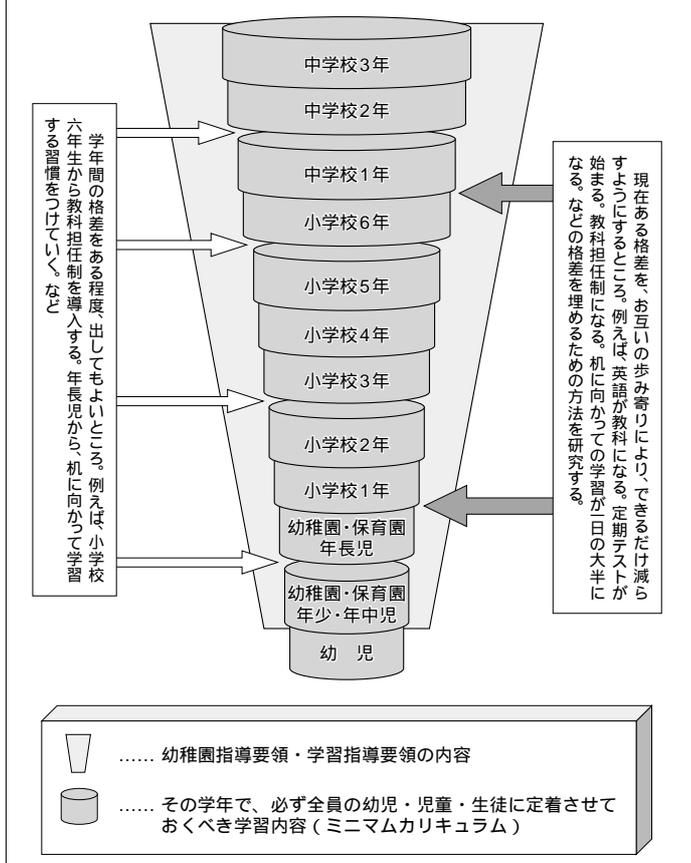


### 学習内容に関する幼・保・小・中一貫教育イメージ



度（家庭学習も含めて）

- ・ 小中学校の各年齢において扱う発展的な学習の具体的な内容
- ・ その他

「基本線」（ミニマムカリキュラム）について

学習指導要領の内容をすべての児童生徒に確実に定着させることが本来の目標です。しかし、現実として中学生でもかけ算の九九が十分でない生徒もいます。これは、各学年の担任・保護者が責任を果たしていないと言えます。

この状況を変えるために、少なくともこの内容だけは、その学年の児童生徒に確実に定着させないと、その後の授業にほとんど参加できない

状況になるといった内容を明らかにし、確実に定着させる必要があります。

担任・保護者は、最低限の責任を果たして、次の学年に送り出すようにします。この「基本線」は次第に内容が多くなり、最終的には学習指導要領の内容になることが目標です。

小中学校で、すべての児童生徒が楽しく授業に参加できるようにするために、各年齢で身につけさせる各教科の基本線を明らかにします。

全教科が目標ですが、まずは小学校高学年や中学校で困っている実態から、緊急に取り組む必要がある教科を明らかにし、その基本線を明らかにします。

- ・ 道徳・健康教育について
- ・ それぞれの年齢における道徳教育の重点
- ・ それぞれの年齢における健康教育（性教育・薬物乱用防止教育含む）の重点
- ・ 総合的な学習の時間における小学校と中学校で育てる力について
- ・ 四小学校で育てる力（共通する力と各学校独自の力）
- ・ 阿久比町の特徴（農業・自然など）を生かした小中一貫した単元の開発
- ・ 英語活動と教科英語の連携
- ・ (四) 幼稚園・保育園・小学校・中学校が責任を果たすための方法について研究します。
- ・ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の共通理解の方法について
- ・ 連絡協議会の設置
- ・ 幼保小交流行事、小中交流行事、幼保小中交流行事の新設
- ・ 幼保小保育・授業研究会、小中授業研究会
- ・ 幼保小中間での相互の授業・保育体験実習
- ・ 幼保小中懇談会
- ・ 人事交流 など
- ・ 家庭・幼稚園・保育園・小学校・中学校の指導方法について
- ・ 四歳から十五歳までのそれぞれの発達段階における学習習慣のあり方
- ・ 四歳から十五歳までのそれぞれの発達段階における効果的な指導

- ・ 形態（個別指導・グループ指導・少人数学級・習熟度別指導・TT指導・教科担任制など）
- ・ ○歳から十五歳までのそれぞれの発達段階における命の教育・心の教育のあり方
- ・ ○歳から十五歳までのそれぞれの発達段階における食育のあり方
- ・ 四歳から十五歳までのそれぞれの発達段階における礼儀・作法のあり方
- ・ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の指導の検証方法について
- ・ 中学校における生徒の姿の変容で検証
- ・ 不登校・いじめの数の変容
- ・ 中学卒業後の生徒の進路の変容（定職につく数の変容）など
- ・ 九年から十二年の期間での検証が必要であると考えています。
- ・ 幼稚園・保育園・小学校・中学校指導の検証結果の公表方法について
- ・ 阿久比町の幼・保・小・中すべての学校・園の公開日を作り、参観してもらい、参観者との研究協議を行う予定。
- ・ 次号では、プロジェクトの組織についてお知らせします。
- ・ 問い合わせ先  
学校教育課  
☎(48)1111(内202)  
阿久比町教育委員会のホームページにも掲載してあります。  
(<http://www.town.agui.g.jp/ka/gakkyo/project.htm>)